グリーン・ツーリズムのその後
この夏おいしく楽しく盛り上がりました

●シソジュース

前回、お伝えしたシソジュースづくりは、8月9日と27日の2回にわたり開催されました。“とって・つくって・たべる”農業体験ということで、まずはシソをとってきます。赤シソは夏を経て大人の腰の高さまで成長していました。六所地区にある逆川のそば、森田氏の畑で収穫。

収穫したシソを水でよく洗い、鍋でぐつぐつ煮むこと10分。ワインのような深い赤のシソエキスがでてくるので、よく絞り出します。シソの葉を取り除いて砂糖、クエン酸とお酢を入れます。調味料による味付けは好みですが、お酢が多いほうがより長持ちするそうです。酢をいれると深い赤だったジュースが鮮やかなピンク色に変わります。理科の実験のようで子供たちも喜んでいました。その後、ろ過して完成。

完成したシソジュースの原液は、目安として3倍程度に薄めて飲みます。好みで甘味を加え、お酒やソーダ水などで割ってもおいしそうです。爽やかなシソの風味とさっぱりした味付けで、とても飲みやすく、おいしいです。

きれいでおいしいジュースの出来上がり！

【レシピ】
シソ500g　水2ℓ　砂糖500g
穀物酢500g　クエン酸25g
できあがり量2～2・5ℓ

安藤慧（里山建築研究所）

●草木染め体験「藍の生葉染め」

連日の猛暑も一息、曇り模様がほっとする8月20日(土)に「藍の生葉染め体験会」が行われた。藍畑に集まった12名の参加者は、藍を育てている鮏川和行さんより、かつてお父上が営んでいた紺屋のこと、山麓での藍染め復活への思いなどを伺った。筑波山を間近に感じながら、生葉はあっという間に袋いっぱい収穫された。

その後「筑波ふれあいの里・染色体験施設」に移動し、早速染めの作業にとりかかった。新鮮な生葉を搾った緑色の藍液にシルクの布を浸し、空気にさらして鮮やかな水色に変わる瞬間には、あちこちから歓声があがった。

染められた布が行儀よく干され、風になびく様子を満足気に眺める参加者の笑顔が印象的だった。

松本真朋（里山建築研究所）

鮮やかな色に染まりました

●20数名がミカンのオーナーに

小面積の畑にミカンを植えても販売がむずかしい。そこで、オーナー制をとり入れて、ミカンの手入れや収穫を楽しみながら、筑波山麓の美しい風景に接し、農家の方々と交流する「農業体験」を始めた。

10月4日、立野地区の菊地貞さん宅に、茎崎等市内各地から、幼稚園児から小学生を含む、オーナーになる家族連れ26名が集合。

つくば市農業課の半田氏が農業体験制度について、地元の方が、田井地区（立野）の気候風土がミカン栽培に適していることなどを話した。そして、菊地さんのミカン畑に行き、各家族が自分のミカン樹にしたい樹に氏名を書いた木札を下げた。それから、樹の根元の草取りをして、初体験は終了。

その後、太子堂等を見学し、菊地さん手製の揚げもちをごちそうになりながら、楽しいひと時を過ごした。

森田源美（グリーン・ツーリズム会員）

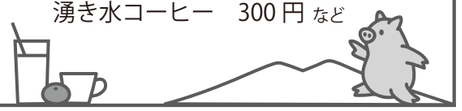
これから大事に育てます！

「すそみ茶屋」今年も開店！

いらっしゃい！

11/5(土)、6(日)　10：00～15：00
臼井「辻・鮏川邸」前庭にてオープン

福来みかんのクッキー　250円
手作り梅ケーキ　150円
筑波産梅ジュース　200円
湧き水コーヒー　300円 など



筑波山麓秋祭り　この秋の見どころ

●鎮魂と復興を祈って
「瓦の灯りプロムナード」

普門寺の参道を今年も150基の「瓦の灯り」が点ります。参道入口から赤門までの緩やかな登り坂の両側に並ぶ瓦の灯りは、平成18年から20年まで田井小学校に在籍した児童の作品です。

今年の「瓦の灯り」は特別な想いを込めて照らします。東日本大震災や台風十二号で犠牲になられた多くの人々の鎮魂と被災地の一日も早い復興を願い、またこの地域の安寧を祈りながら一基々々点灯します。

開創から690年、幾多の困難を見守り続けて来た普門寺。この古刹参道の「瓦の灯り」は、必ずや人々に艱難辛苦を乗り越える力と光明を与えてくれることでしょう

石井博子（神郡地区）

▼「瓦の灯りプロムナード」
11月5日(土)午後5時～7時

復興の希望の光となりますように

●六所の森に響け！
コカリナが奏でるいやしの音色

六所皇大神宮跡で開かれる「いやしの森演奏会」。雅楽、和太鼓に続いて、コカリナが演奏されます。

このコカリナという楽器は、シンガーソングライターの黒坂黒太郎さんがハンガリーの笛を基に完成させた笛です。「木で出来たオカリナ」とも言われます。

1998年の長野冬季オリンピックでの演奏を機に全国に愛好者が広がりました。2001年、つくば市にもコカリナサークルが誕生。筑波山麓では、年に一度のコカリナ発表会「筑波山麓コカリナピクニック」(例年4月29日)が行われ愛好家が集い演奏を行っています。

2008年6月、黒坂黒太郎さんが「筑波山」という曲を発表。この曲はCD『里唄』シリーズの一つとしてキングレコードから発売されました。今年6月7日には「筑波小学校」でスクールコンサートを開きました。六所の森に響くいやしの音色をお楽しみください。

(筑波山麓コカリナ連絡会・田中宗男)

御座替祭にてコカリナを披露

▼「いやしの森演奏会」
10月30日（日）午後2時30分～
料金500円

コカリナって？
○ 木でできたとても小さな楽器
○ 子どもから高齢者まで、誰でも気軽にはじめられる楽器
○ 音楽の敷居をぐっとさげてくれる身近な楽器
○ 森や木に感謝し、自然を愛する楽器
○ 平和を願う人たちの楽器

●伝われ！希望！
ナチュレ・コンサート

今年はナチュレ・コンサートなのです。草薙拓也と筑波山麓オーケストラと自然生クラブ太鼓隊が一緒に演奏するというコラボになります。和と洋の合体、都市と農村のからみあい、カオスから連帯へ、連帯から共鳴へと、グルーヴは弾け、至福の海となり、みんなの心から未来への希望が伝わってくれればという思いで演奏します。榎田智司(六所地区)

▼「ナチュレ・コンサート」
11月3日(木・祝)午後2時～
大人500円

●被災地の復興を願って
福来(ふくれ)みかん狩りをしよう！

筑波山麓で行われる秋祭りで、福来みかんを摘み取るみかん狩りをすることになりました。

臼井にある鮏川和行さんのみかん畑では、およそ80本の福来みかんが植えられています。鮏川さんが5年前から丹精こめて育てた木が、この秋ちょうど収穫の時季を迎えました。

黄色く色づいた福来みかんを、各自が摘み取ってビニール袋（こちらで用意したもの）に詰め、それを1袋500円で販売。今回の企画の収益は、すべて東日本大震災の復興に役立てられるとのことです。

たくさんの方々のご参加とご支援をお待ちしています。

上野節子(小沢地区)

福来みかんが元気に育っています

▼福来みかん狩り
11月5日(土)
500円